

名古屋市立大学医学部附属東部医療センター



病院長名	大手 信之
所在地	〒464-8547 愛知県名古屋市千種区若水一丁目2番23号
交通案内	・地下鉄（東山線・桜通線）「今池」駅から徒歩にて約10分 もしくは市営バスにて3分「東部医療センター」下車 ・地下鉄（東山線）「池下」駅から徒歩にて約13分 もしくは市営バスにて5分「東部医療センター」下車

□ 病院の特徴

34の診療科と40を超える学会認定を持つ、名古屋市の東部方面を受け持つ総合病院です。

救急医療に力を入れ、年間約8,000件の救急車搬送と約7,000件のwalk in患者を受け入れております。救命救急センターとして、心臓血管疾患、脳血管疾患、外傷の患者を多く受け入れ、緊急手術やカテーテル治療を行うための最新の設備も充実しております。また、名古屋市の感染症指定病院として感染症専用病床を常時運用し、輸入感染症や新興感染症に対応しています。

2021年からは名古屋市立大学の附属病院となり、市立大学病院群から経験豊富な指導医が多数赴任するようになりました。初期研修を修了後に指導医とともに更なる臨床経験を積みたい方、専門性を伸ばしたい方を募集しています。

□ 研修プログラムの特徴

名古屋市立大学医学部附属東部医療センター救急科プログラム

【研修期間】3年

【研修の特徴】

- 1) 重症から軽症まですべての救急患者の初期診療を担う“ER型救急”と重症患者の初期診療から緊急手術・処置、集中治療まで担う“三次型救急”をバランスよく研修し、救急科専門医に必要な臨床の知識や技術とコミュニケーション力、精神力を養います。
- 1) 日本救急医学会の定めるカリキュラム（救急科研修カリキュラム）に則って専門知識および専門技能を修得していただきます。この研修プログラムでは、指導医による適切な指導のもと、カリキュラムに定められたすべての専門技能を十分な症例数の中で経験することができます。
- 2) このプログラムの基幹施設および連携施設では、地域医療を支える救急医療を行っています。また、指導医のもとで救急隊への特定行為の指示、救急隊の症例検討会への参加により、地域におけるメディカルコントロール活動にも参加していただけます。
- 3) 専攻医には、研修期間中に毎年少なくとも1回の学会発表と研修期間中に少なくとも1編の救急医学に関するピアレビューを受けた論文発表を行えるよう各研修施設で指導します。また、外傷や心停止などのレジストリ登録を行うことも重要な学術活動として指導医がサポートします。
- 4) 臨床現場での研修とともにカンファレンスによる知識・技能の習得が充実しています。カンファレンスを通して、プレゼンテーション能力が向上するだけでなく、患者の病態と診断過程を深く理解し、治療計画を作成するための理論を学んでいただきます。

□ 連携施設

名古屋市立大学救命救急研修プログラムの専門研修施設群は愛知県（愛知医科大学病院、藤田医科大学病院、一宮市立市民病院、刈谷豊田総合病院、独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院）および大阪府（堺市立総合医療センター）にあります。施設群の中で一宮市立市民病院、刈谷豊田総合病院、独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院は、地域中核病院です。

□ メッセージ

指導医（救命救急センター長・病院長補佐 松嶋麻子）

愛知県では各診療科が救急医療に協力する体制が整っており、そこで救急医に求められるのはすべての救急患者の重症度・緊急度を見極め、必要な診断と初期治療を行い、適切な診療科や医療・介護サービスへ引き継ぐことです。多発外傷や広範囲熱傷、重症中毒など適切な診療科がない場合は、自分で重症患者の診療も引き受けます。これらの能力は今後起こり得る災害の多数傷患者の対応においても大きな強みとなります。東部医療センターの救急科専門医プログラムでは、東部医療センターの研修に加え、連携施設で少なくとも1年間、三次救急を重点的に研修する期間を設け、重症患者の初療から回復期までの診療を学びます。軽症から重症まで、先を見通した救急診療ができるようになることが目標です。



□ 募集要項

・採用予定人数	3人
・給与/月額	548,000円 (※令和5年度実績、調整額を含む)
・当直回数/月	週1回程度
・当直料/回	25,000円～52,000円(令和5年度実績)
・その他	研修費(図書費・学会補助)年額20万円あり
・応募連絡先	担当者 臨床研修事務担当 電話番号 052-721-7171 Eメール res.emc@med.nagoya-cu.ac.jp